

第7回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会議事録

- 1 会議名 第7回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会
- 2 開催日時 平成29年3月30日(木) 午後3時30分～午後5時10分
- 3 開催場所 小淵沢総合支所1階会議室

4 出席者(敬称略)

出席委員

茅野 光一郎、小林 伸一、宮坂 清、小林 千鶴子、草野 香壽恵、氏原 宏幸、
卯月 盛夫

欠席委員

坂本 興一、小林 健展、久保 秀博、清水 純子、鈴木 正吉

事務局

岩波 信司(小淵沢総合支所長)、坂本 孝典(まちづくり推進課長)、植松 宏夫(まちづくり推
進課長補佐)、景観まちづくり担当リーダー末木 陽一、田中 勇

会議録署名委員

宮坂 清、氏原 宏幸

5 議題

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 協議事項
 - ①今後の地域活性化計画について
 - ②その他
- (4) 閉会

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の数

0人

8 議事内容

- (1) 会長あいさつ
卯月会長があいさつを行う。

- (2) 協議事項
 - ①今後の地域活性化計画について

(会長)

協議事項1「今後の地域活性化計画について」について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

それでは、今後の地域活性化計画について事務局より説明させていただくが、最初にこれ

までの経過説明させていただき、その後、本会の活動実績及び地域活性化のための提案について、東京芸術大学の調査研究の活動実績及び総括等について、イベント実行委員会について説明をさせていただきます。

まず、小淵沢駅周辺整備事業については、平成24年からの5カ年計画であり、今年度が最終年度となりました。前身の小淵沢駅周辺地域活性化計画策定委員会の後進として設立した「北杜市小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会」については、平成26年8月28日に第1回協議会を開催し、今回で7回目になる。委員の皆様には、任期2年のところを長期にわたりご出席していただき、感謝を申し上げます。

この協議会は、小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業を市民と一体となった円滑な推進を図り、地域の特性を活かした小淵沢周辺地区都市再生整備計画の推進を図るために設置したものである。

また、市と東京芸術大学の官学の連携協定に基づき北川原研究室に協力を頂く中で、委託研究を進めてきた。

平成25年度には、地域活性化のための様々なアイデアパイロットプロジェクトを計画した。それらに基づき、プロジェクトを企画・立案し、いくつかのイベントを実施してきた。また、イベントを通じて、地域の方々との積極的な関わりもできところである。

これらの内容については、このあとの報告の中で説明させていただきます。

本協議会では、小淵沢駅周辺の活性化に向けて、どうすれば活性化につながるか、議論していただき、大きな柱として、1. 次世代の育成 2. ウォークラリー 3. 拠点施設整備があげられ、それらに向けた事業計画が検討され、策定した。事業実施については、行政が主体となるのではなく、住民が主体となるように実行委員会形式の会を設置し、計画実行に向けて進めていきたいと説明させていただいた。

「小淵沢駅舎竣工に伴うイベント実行委員会」は、昨年12月に立ち上げ、2回目にイベント内容の検討や役割分担などを決め、オープンイベントに向けて準備している状況であり、この協議会のメンバーの方にも委員としてご協力を頂いているところである。

実行委員会では、具体的に4つのイベントを計画している。

一つ目として、駅舎新築記念植樹に関する事業、二つ目として、ウォークラリーに関する事業、三つ目として、地域小中高生、芸大と共同して行う事業、四つ目として、駅舎メモリアル事業を行う予定になっている。

今回策定されました計画は、商店街内の人々の賑わいと地域の誇る自然環境を活用し、地域全体で広がりのあるまちづくりが展開されることを期待するとともに自主的な活動を後押しし、地域全体の振興を図ることを目的に行っている。まちづくりは、長期的な視点を持って、継続的に取り組んでいくことが重要であると思っている。今回の小淵沢駅舎及び駅前広場整備事業を一つのきっかけや起爆剤にさせていただき、地域の活性化を図ることを目的に取り組んでいきたいと思っているところである。5年間にわたり芸大の学生目線で様々なイベントを行ったが、地域の魅力や問題点を議論し、具体的な活動につなげていくことが重要で

あるので、今後とも小淵沢の活性化のため、ご尽力をお願いして私の方からの経過説明を終わらせていただく。

続いて、担当より説明させていただきます。

(事務局)

それでは配布した資料を基に、説明をさせていただきます。

まず「本会の活動実績及び地域活性化のための提案について」である。

経緯についてであるが、平成24年度に小淵沢駅周辺地域の整備を5カ年で行うこととし、国の交付金の採択を平成24年4月に受け、小淵沢駅周辺の地域活性化計画を策定するため、小淵沢駅周辺地域活性化計画策定委員会を平成24年7月に設置し、その後、当該活性化計画を推進するため本協議会を平成26年8月に設置した。

次に活動実績についてであるが、活性化計画策定委員会については平成24年7月から平成25年2月までの間に全4回開催し、本協議会については、平成26年8月から平成29年3月までの間に全7回開催した。

また平成24年10月に市民ワークショップを、平成27年11月に帝京学園短期大学との協同により次世代育成ワークショップを開催した。

次に今後の課題と地域活性化のための提案についてであるが、本協議会においてもこれまでの5カ年において協議検討を行ってきた内容となるが、5カ年の活動を振り返る中で見えた課題及びその課題を解決するための方策案として、これまでの協議会の中で意見等があった内容をまとめさせていただいた。

まず今後の課題についてである。

これまで小淵沢周辺に居住する幅広い世代の方を対象として、地域の魅力の再確認や再発見ができ、また地域の方と協働して行うことをコンセプトとしたイベントやパイロットプロジェクトを実施してきた。

そのイベント等を実施する中で、小淵沢周辺には他の地域に無い多くの魅力があるにもかかわらず、まだ点でしかPRできていないため、その魅力を線でつなぎ合わせ地域全体に展開していくことが重要であるという意見があった

その課題を解決する方法として、これまで検討をしてきた内容となるが4つの提案を記載した。

まず駅北側遊休地の活用である。

これについては、JRが主体となり駅北側の北杜市有地に駅舎開業記念として植樹を行うことから、コラボレーションするなかで、子供から大人までの地域住民とともに植樹ワークショップを実施するものである。自分の手で植樹し地域の自然環境を育てることにより、将来また自分の植樹した木を見に行く、また後世に伝えるなど、地元への愛着が増すことにつながる。併せてこの植樹という経験が、今後の多世代交流のきっかけとなる。

次に多目的スペースの活用例である。

新駅舎は八ヶ岳観光圏及び北杜市の玄関口として多くの観光客を迎え入れる施設であり、そ

の中に小淵沢の魅力を発信する場・観光客と地域住民との交流及び憩いの場として多目的スペースが設置される。その多目的スペースが様々な場に対応し、小淵沢のPR、市民活動等の中心的な拠点として使用する方法案の一部として、芸大と市民演奏団体や小中学校とのミニコンサート・芸大生が製作する神輿や絵画等の展示、すずらん祭りに併せたワークショップ、旧駅舎の備品展示やパネル展、地元アーティストの作品展示等を行うものである。

次に駅舎オープニングイベントについてである。

この内容については、皆様から意見をいただいた内容となるが、記念植樹、小淵沢周辺ウォークラリー・小中高校生とのコラボイベント・朝市・ありがとう駅舎さよならイベントなどである。

最後に地域活性化のためのイベントの提案についてである。

この内容については、協議会で地域活性化のアイデアについて意見していただいたところ55個にもわたるアイデアが出された。その中で実行可能であるものとして「次世代育成」「ウォークラリー」「拠点施設整備」の3つに事業を絞り込み検討を行ってきた。

まず次世代育成については、平成27年度に実施した帝京学園短期大学との協同ワークショップのように、地域の自然・環境・文化などの魅力を世代間を超えて体験できるようなワークショップを行うものである。

次に商店街や駅周辺に点在する史跡等を巡り、文化教育等を行う中から地域の魅力を感じ、発信するため、観光協会やJRと連携する中でウォークラリーを行うものである。

次に地域の方々が意見交換など交流を行う場所を設けることは、地域活性化に大きく寄与するものであると考える。よって小淵沢商工会を活動拠点に位置付け、地域住民の憩いの場、世代間交流の場となるよう整備するものである。また観光客に対しておもてなしの気持ちを表すように、商店街などに子供が作成したベンチを設置するなどするものである。

次に「東京芸術大学の調査研究の活動実績及び総括等について」である。

以降説明する内容については、東京芸大が5カ年の調査研究の実績報告書を基に記載させていただいた。

経過としては、北杜市と東京芸術大学とは、平成23年3月に連携による覚書を締結し、その覚書を基に小淵沢駅周辺の活性化に係る調査研究を委託するなかで、本協議会にも参加するとともにイベント等の実施、今後の活性化に向けての事業計画の検討などを行ってきた。

次に地域活動等への参加についてである。

調査研究業務のため地域活動への参加として、「ちょうちんてん」「映像インスタレーション」「商店街を描くスケッチワークショップ」などをすずらん祭りに参加し実施した。

生命力の踊り場を2回開催し、小淵沢の魅力を芸術的に表現した。

駅西側の地下通路整備として、白色ペイントの後、平成27年度小淵沢小学校卒業生とともに山並みワークショップを行い、先日東京芸術大学の学生が、小学生の成果を地下通路内に反映するペイントを実施した。

帝京学園短期大学で実施した次世代育成ワークショップにも参加した。

次に5カ年の研究の総括及び将来の展望については、報告書から抜粋した内容となる。

平成24年度からの5年間で実施してきた調査研究については、小淵沢での地域活性化のための可能性を広げることを目的として行ってきた。各プロジェクトを具体的に実施していくには、小淵沢地域に一番適したプロジェクトの運営、実行のためのリサーチ、協議検討から計画の絞り込みが重要であった。

プロジェクトと行う中で、広く告知し、より多くの方に参加を促すこと、より多くの方が訪れるように駅や商店街の各店舗に適したワークショップの実施場所や雨天でも円滑な運営ができるよう留意することなど、多くの今後の改善すべき点を確認することができた。

そのような中でも、参加した子どもや地域の方から、参加してよかった、楽しかった、当たり前にあった風景などを改めて確認できた、幼少期から過ごしてきたところではあるが自分で気づけなかった魅力に気づけたなど多くの意見や感想をいただくことができた。

本学としても小淵沢での調査研究を通して、雄大な自然や地域の方々・協議会の方との人柄に触れ、その魅力が年々増していくとともに、これらの活動がこれきりのものではなく、継続的に実施され、地域の方々の生活に根付いたものとしていくことが最も重要なことであると感じた。

そのためには住民全体が主体となり、自主的な地域のルールづくりや交流・文化活動などを自治体の協力を得る中で取り組むことが重要であり、また北杜市の資源である雄大な自然とその自然の循環のなかで営まれる生活の光景が北杜市の魅力であるため、それらを地域全体で発展的、創造的に継承し、世界に誇れるまちづくりを進めていくことが重要であると感じた。

次に将来の展望についてである。

駅は観光客が小淵沢らしさに出会う最初の場所であるため、駅周辺地域の担う役割は非常に大きいものであると考える。

そのようなことから、本年度設立した地域住民の方々による実行委員会を中心として、駅舎開業を起点とした、記念植樹、ウォークラリー、駅舎メモリアル事業等を実施し、その活動の中で持続的・継続的に行っていくイベントを模索し実行していくことが重要であると考ええる。

また今後についても、東京芸術大学との連携によるワークショップ等の実施が、小淵沢の地域住民の方々にとって今後も継続的に地域を活性化するひとつの役割・手掛かりになればよいと考えている。

(会長)

今事務局より説明があったが、何か意見等はあるか。

(委員)

事務局からの説明の中で拠点施設整備という提案があったが、小淵沢商工会と記載されているのは、小淵沢商工会館ということで良いか。

(事務局)

小淵沢商工会館を指している。

(委員)

小淵沢商工会館については北杜市商工会の所有になっているが、カード会が事務を行うため一部の部屋を借りている。

実は去年の暮あたりから、賃貸でも良いので商工会館を貸していただきたいということをまちづくり小淵沢から商工会へ申し入れをしており、既に北杜市商工会と地域の関係団体等には事業等の説明を行い理解をいただいている状況であり、あとは商工会の理事会の中で協議していただき判断を待っているところである。

しかし商工会が管理は行っているが、最終の判断は市になると思われるので、市長にも挨拶に伺いたいと考えている。

具体的にはまちづくり小淵沢が商工会館を活用して、自主事業と提案に記載されているような住民の交流の場を整備したいと考え動いている。イベントも非常に大事であるが、365日地域の住民がコミュニケーションを育むことが地域活性化の原点であると考えているので、今話をしたような動きを具体的にしているので市にもぜひ応援していただけるとありがたいと思っている。

(会長)

今委員から発言があったが、市は既に承知している内容であったのか。市として何か意見をお願いしたい。

(事務局)

今初めて伺った内容である。

これまで議論をしてきたところであるが、なかなか拠点施設整備については進まない状況であったため、非常にうれしい話であると感じた。ぜひまちづくり小淵沢さんに頑張ってもらって、憩いの場を提供できる施設になることで商店街も活性化と思うので、よろしくをお願いしたい。

(委員)

もう1点踏み込んで言うと、現在の商工会館のままでは使用できないためリノベーション的なことが必要である。よって修繕等に必要な資金については、自ら調達する思いであるので、併せてご協力などの後押しをお願いしたい。

(事務局)

了解した。よろしくをお願いしたい。

(会長)

整備はいつ頃に行う予定なのか。

(委員)

すでに設計というかプランについては既に動き出しているなので、今年中に整備を行いたいと考えている。

(会長)

非常に良い話であると思う。

商工会館が拠点となることで、地域の方々がふらりと寄れる場所になる。

コミュニティーカフェのようなものに整備するのか。

(委員)

そのような内容も検討しており、2階についてはシェアオフィスを計画している。

シェアオフィスについては、既に富士見町で実施している。また小淵沢は特急も停車し、北柱市の玄関口になるので、駅から歩いてすぐの場所にオフィスがあるということで利用する方は多いと思う。

その他の計画としては、駅前で安全安心な食材を販売しているが、その販売スペースを拡張するため商工会館で行いたいと思っている。

よって食とオフィスと地域住民の交流・憩いの場を提供する、生活の中に溶け込んだ施設として実現したいと思っている。

(会長)

施設を整備することは、商店街にとっても非常に良いことである。

(委員)

私たちが各商店街の売り上げを上げることはできないが、施設整備により今以上に人を呼び寄せるので、あとについては各店舗が営業努力でお願いしたいという考えである。

(会長)

拠点施設整備が充実するということが、大変良い話を聞くことができた。

他に意見などどうか。

(委員)

今の話は大変うれしく思った。

先日観光協会による棒道のウォーキングマップの会議があった。

これまで東京芸大が関わる中で多くのイベントを実施してきたので、今後どの程度芸大との関わりが継続するのか気になっている。というのも先日芸大にペイントしていただいた地下通路は、地元の方もなかなか通ることのないところであるため、地下通路を通り駅に戻るルートのウォーキングマップの作成している。

ウォーキングルートに入れることにより、小淵沢小学校の卒業記念の作品を多くの方に見ていただきたいと思っている。

よって今後、芸大と関わりを持つことができるのか確認したい。

(会長)

市と芸大との契約は今年度で終了とのことであったが、事務局から回答をお願いしたい。

(事務局)

会長の説明のとおり、調査研究委託は今年度で終了するが、先ほども説明したとおり官学連携により協定を締結しているので、何か協力してもらいたい案件があればその都度芸大に依頼を行うこともできる。

市としても駅舎オープニングの際に実施予定である小中高校生と芸大のコラボミニコンサートについては、開催日は予定ではあるが7月2日の日曜日に実施できればと思っている。また、すずらん祭りについても同日に行いたいとの要望を受けているので、うまく日程が合えば同日に実施することができるのではないかと考えている。

(委員)

その時に、生命力の踊り場を開催してもらうことはできるのか。

(事務局)

日程が確定すれば芸大の出演者の調整もできると思うが、そのようなイベントについては第3回のイベント実行委員会を4月中に開催するので、その中で協議を進めていっていただきたいと考えている。

またイベントについては、教育委員会で実施するイベント・すずらん祭り・馬のまち祭りのウォーキングなどが開催されるので、可能であれば以前会長がおっしゃっていたように4月中にイベントラリーのポスター等を作成する中で周知ができればと思っている。

それにより駅舎オープン後もイベントが続いていくことで、引き続き地域を盛り上げていくことができると考えている。

(委員)

観光協会としても、いろいろなイベントに対して協力を行っていきたいと考えている。

観光協会として検討しているのが、ウォークラリーを行うとともに馬術競技場を中心として馬との触れ合いを持つということである。

この前のウォークラリーの会議の際に、駅と協議を行う中でどのようなイベントを実施できるのかなど話があった。これまでの実施方法とは違い、駅となるとバスなどの問題もあるが、駅付近のウォーキングということもあり、駅長も協力したいという話をいただいたところである。

昨年度の馬のまち祭りでは軽トラ市を計画したところ、あいにくの雨であったが、内容的には非常に良く地元の方にも喜んでいただけたものとなった。

開催日も9月24日の日曜日に決定しているので、関係機関と協議を行い早くPRを進めていきたいと考えている。

(会長)

事務局から説明があったが、今後広報などのスケジュールはどのように考えているのか。

(事務局)

ではイベント実行委員会の話を、担当から説明をさせていただく。

(事務局)

イベント実行委員会については、昨年12月末に設立をした。委員会のメンバーには、本協議会の委員の方もいる。

イベントのコンセプトとしては、7月に開催した第6回推進協議会の中でも説明をさせていただいたとおり、次世代を担っていく地元の子供たちに地元北杜の魅力を伝えたい・北杜

の自然、景観、職討の多くの魅力をPRしたい・子供も大人も共に楽しみ、記念と記憶に残していきたい・北杜の地域資源について再考させたいというものである。

実行委員の構成については、小淵沢で活動している団体、例えば地域委員会、観光協会、商工会、女連協、行政区など様々な方にご依頼を行い、14名の方に委員になっていただいた。しかし現在の委員の方のみではなく、今後事業を継続していく中で必要に応じて委員を追加することも可能である。

2月に2回目の実行委員会を開催したところ、配布した資料の3ページにあるように記念植樹から駅舎さよならイベントまでであったのだが、まずは4つに絞り事業を行うこととした。

まず駅舎新築記念植樹については、実施主体はJRとなるがイベント実行委員会及び市が協力を行う中で実施することとし、実施時期については5月21日頃を予定している。

次にウォークラリーに関する事業についてであるが、先ほど委員から説明があったとおり9月24日に開催予定であり、事業主体は観光協会になっていただくが実行委員会としても協力を行うこととする。

次に地域小中高校生と東京芸大と共同で行う事業についてであるが、まずはミニコンサートを実施したいと考えている。実施日については芸大や地域学校との調整が必要となるが、7月2日予定の竣工式に実施したいと考えている。もし調整が困難であった場合については、別の日程で調整して開催することもできるのではないかと考えている。

次に駅舎のメモリアル事業についてであるが、この事業については2本のイベントを検討しており、まず1本目としては既存駅舎に感謝の気持ちをペイントするイベント、2本目が駅舎の中に多目的スペースが設置されるので、その場所に小淵沢駅の思い出の写真を展示するイベントを検討しており、ご存じだと思うが、3月号の広報に思い出の写真の募集の掲載をさせていただいた。また早い段階から地域の方にご協力をいただき、写真の収集についてお声掛けを行っていただいているところである。

また駅舎のペイントについては、駅舎の供用開始から旧駅舎の解体までの1日程度で実施したいと思っている。またその際は写真により記録し、多目的スペースで展示したいと考えている。

その他食に関するイベントとして、今後朝市なども提案もあるかと思うが、現在は駅舎及び広場も整備している最中であり、広場の完成については9月を目標に進めているところであることから、それ以降の開催となるため収穫の時期の関係もあり今後協議を行っていく方向で考えている。

以上簡単ではあるが説明をさせていただいたが、イベント実行委員会で実施した内容を検証する中で、今後継続的に実行されるものとなればよいと考えている。

(会長)

既に5・7・9月というように確定しているイベントがあるようである。そこで1点確認であるが、駅舎の開業は7月2日で決定ということで良いか。

(事務局)

市の意向としては7月2日とし、現在JRに調整を依頼している。よってまだ予定ということでの理解をお願いしたい。

(会長)

駅舎の取壊しはいつ頃になるのか。

(事務局)

市としては、できる限り早く駅前広場を供用開始し市民に開放したいと考えている。

今の計画工程としては、駅舎供用開始を仮に7月2日とした場合、その後2週間程度しか時間的なゆとりは無いのではないかと考えている。

(会長)

できれば夏休み中に、駅舎へのペイントができればよいと思うが。

(事務局)

いずれにしても今の段階では、JRが行う旧駅舎の取壊し時期が未確定であるため、どのような時期にペイントのイベントを実施できるのか言えない部分はあるが、早く駅前を完成させ供用開始させたいと考えている。

(会長)

駅舎は多くの方が利用する中で、いい思い出や悪い思い出がたくさん詰まった場所である。

よってただ取壊してしまうのではなく、楽しい落書きをして思い出に残すということから作業風景や描いた後は記録をしっかりと取っておくことが重要であるため、その記録を写真集などにまとめることで、今後の記録と記憶に残るものとなる。

また重機により取壊しを行うと思うが、取り壊す現場を皆で見学し、旧駅舎への感謝を感じることも記憶に残す重要な手段であると思う。

他の委員はどうか。

(委員)

会長の提案は非常に良いと思う。

旧駅舎で、昔の駅での思い出話などをする座談会など開催するのも良いのではないか。やはり会議室などではなく、取壊しを行う駅舎の場所で座談会を行うことで価値があると思う。

(会長)

駅舎は出会いの場でもあるが、別れの場でもある。あの場で思い出を語ることは非常に良いと思う。

(委員)

小淵沢駅は100年以上経っているため、非常に重みがある。

(委員)

小淵沢駅の廃材をカットして、どこかの場所に寄せ木で八ヶ岳を造りたい。

その製作には芸大にも入っていただけるとよいと思う。

(会長)

その展示はぜひ商工会館が良いのではないかと。

廃材はJRのものであるので、調整は必要であると思うが。

(事務局)

廃材は処分するだけなので、調整はできるのかもしれない。

(委員)

どのようなものを作るイメージなのか。

(委員)

今年のすずらん祭りの際に芸大が商店街をスケッチしたようなものを、今度は廃材を利用して八ヶ岳をバックにした駅前商店街を描くイメージであり、そのようなことを行うと商店街の方々の思い出にもなるのではないかと思う。

(会長)

取壊しを行う前に座談会を行い思い出を語って、取り壊したら廃材を利用した作品づくりを行えば10月、11月まで駅舎のイベントがつながることになり非常に良いと思う。

事務局としてはどうか。

(事務局)

廃材等についてはJRと協議を行わないと明確な回答はできないが、駅舎内にある備品については事前に確認を行い要望すれば、市に寄贈してもらえるような話を現在いただいている。よって頂いた備品については、一般の方にお渡しするようなことは出来ないようなので多目的スペースで展示する計画をしている。

(会長)

では頂く備品を事前に確認するということか。

(事務局)

そうである。

(委員)

電車に興味のある方も多いので展示などすると良いと思う。

(会長)

一部は新駅舎内で展示して、一部は拠点施設となる商工会館で展示し、両施設で見学してもらえれば良いと思う。もっと言えば商店街に点在させて展示できれば、見学者がラリーのように周ることができる。

(委員)

先ほど話があったように電車に興味のある方が増えてきているので、駅の備品のような貴重な品を多く展示できると良い。

(委員)

食に関するイベントについて説明があったが、それは朝市を検討しているのか。

(事務局)

検討しても良いのではないかという提案である。

(委員)

私はぜひ朝市を実施したほうが良いと思っている。

道の駅でも野菜を販売しているが、利用客が多く人気が高い。

よって小淵沢駅から降りてきた方のために、朝市などで野菜を販売したら人気も出ると思う。

(事務局)

野菜など販売することは良いと思う。

しかし広場の完成が9月頃になる予定であるため、その時にどのような野菜があり本年度から販売できるのか、また来年度本格的に実施するのであれば協議検討が必要であると思う。

(委員)

J Rも駅舎内で野菜の販売などを検討している可能性もあるため、朝市など実施する際は事前に調整が必要になると思う。

(事務局)

J R側施設にどのような店舗が入り、どのような販売方法を執るのか把握できていない状況である。

(委員)

J Rとも連携を取りながら進めていけばよいと思う。

(委員)

朝市はJ Rが主体になって実施するのか。

(事務局)

地域の皆さんが主体となり実施していただくことになる。

(会長)

朝市は、駅舎のどの部分で実施できそうか。

(委員)

階段を下りてきた部分や歩道を利用すれば良いのではないか。

(事務局)

図面では広がりなど不明確なので、完成した後に実際に確認するなかで決定したほうが良いと思う。

(会長)

では駅舎に関するイベントが、10月頃まで続くということで大変楽しみである。

まだ詳細な日程等が確定していないため全体の内容を確定するにはもう少し時間がかかるとのことであるが、5月連休前には広報などが行えると良いと思うがいかがか。

(事務局)

駅舎整備の工程については、4月中旬になればJ Rも確定できるという話を聞いている。

よってその工程が確定した後に、実施予定日の検討に入れる状況である。

(会長)

早い段階で実施予定日が決まり、イベントポスターが作成できると良い。

(委員)

確認してもらいたいことがあるのだが、天気の良い日に駅舎の展望デッキに上がってもらい、富士山や北アルプスなどの日本の巨峰が見れるか確認をしていただきたい。

もし日本の巨峰が見られる駅ということがニュースになれば、東京などから多くの方が小淵沢駅を訪れると思う。

よってポスター作製の際に、そのような文言を入れるなど事前に検討をしていただきたい。

(事務局)

デッキに上がれる状況になったら、確認を行うこととする。

(会長)

その他意見などいかがか。

(委員)

感想になってしまうが、北杜市には日野春・長坂・小淵沢に駅があるが、日野春と長坂については学生が利用する程度であるが、小淵沢駅は今後に向けて盛り上げているので大変うらやましく思う。またこの会のように住民が参加して検討を行っているので、みんなの意見が反映された駅や地域の活性化につながっていると思う。

先ほどの話のように拠点づくりができるということであるが、拠点ができれば地域は活性化すると思うので私も小淵沢に移住したいと思ったほどである。

イベント実行委員会の委員になってはいないので、今後一緒に関わっていくことができないことがさみしいと思う部分があるが、今後地域の方や芸大が連携して地域の活性化に向けて進んでいければよいと思う。

(委員)

ぜひ実行委員会の委員になっていただき一緒に活動していきたいので、事務局から任命してもらいたい。

(会長)

これから帝京学園短期大学などとも連携して事業を行っていくと思うので、今後についても協力をしていただければと思う。

他になにか意見等あるか。

(委員)

最後にこれまでの協議会に対しての意見になるが、会長には大変お世話になった。一時は年に1回しか協議会が開催されないこともあったが、私は会長からいろいろな場所の事例やまちづくりの考え方を学ぶことができた。私の団体は11年活動を続けてくることができた。ではなぜ11年も活動を継続できたかということ、人件費について公金に頼ってこなかったことと、団体設立当時から自立ということ意識してきたからである。

今後まちづくりを行うためには後継者を育てることが重要であり、また公金に頼らず自分で地域の課題を解消することをビジネスとしていくのであれば胸を張って実施していけるのではないかと思っている。

よって国でも提唱しているコミュニティービジネス・ソーシャルビジネスなどの考えを持って今後頑張っていきたいと思っているところであるが、まちづくりの専門家である会長から何か意見などをいただければと思う。

(会長)

確かにTMOを作ろうと言っていた時代は、TMOが収益を上げて持続可能な組織として運営していくということは国もあまり考えていなかったと思う。当時は各省庁でいろいろな補助金があったため人材に要する費用を確保できたが、その後補助金も削られたことにより潰れる会社が増えてきた。

その中で機能している会社というのは、収益を考慮した事業をしっかりと実施してきた会社である。私はあまり賛成できないが、その収益事業で一番多く実施してきたのが、それまで行政が実施していた駐車場の管理を引き受けることであった。それは決して悪いことではないが、地域の活性化に必ずつながるものではないので、もう少し収益を上げることができるコミュニティービジネスやソーシャルビジネスなどの新しいことを考えることが本来のまちづくり会社の役割であると思う。

よって全国一律で実施することではなく、各地域によって少しずつ異なった事業の実施に挑戦していくところが重要であると思う。

先ほど委員からも話があったが、空き家や空き店舗が増えてきているのでそれをコミュニティーカフェ・シェアオフィス・子どもが集まれる場所等に利活用する会社が増えてきているところである。またそのような空き家等を活用するために行政から空き家活用に関する助成などのメニューを獲得・活用して事業を実施していくことにより、まちづくりにつなげることができる。

またそのような事業を実施するには人材が必要となるが、そのような会社に行きたい学生がたくさんいることは確かである。しかし実際には、それなりの生活ができないのでは困ると考えることで大企業に流れているという矛盾が発生していることから、しっかりと生活ができるという枠組みができれば、人材は確保できると思う。

今後商工会館をどのように活用していくのか、また皆でまちづくり会社をどのように支えていくのかということが検討されないと計画は途切れてしまう。また芸大についても協力は必要であると思うが今後10年20年も協力をしてもらうことは不可能だと思うので、タイミングを見るとともに、委員が一番考えていると思うが今後のまちづくり会社の体制をどのように整えていくのか重要であると思う。また私も別の形で支援していくことも可能であると思うので、今後とも宜しくお願ひしたい。

(委員)

会長からお話があったが、北九州や東京都などで今あるものを利活用して併せてソフトを入れ込んでまちづくりを展開している代表的な方が清水義次さんという方で、小淵沢町出身である。

また先生がおっしゃったように、若い方もまちづくりに対する魅力を感じ始めてきてくれ

ていることも事実である。よってその核となる施設を整備するということが有効ではないかというところから意見をされているところである。

(会長)

そのようなすばらしいビジョンを、ぜひ実現してもらいたいと思う。

他に何か意見などはないか。

(委員)

コミュニティーカフェの話があったが、小淵沢は非常に貴重な地域であると思っている。

現在健康長寿の県は山梨県でありその中でも北杜市が一番長寿ということである。その中でもこの町が一番長寿であるのかは発表されていないが、小淵沢町には相当数の健康長寿の方がいると思う。このようなことから、言い換えると日本一の健康長寿のまちはこの付近であるということが言える。

私は社協にも携わっていたことから昨年いきいきカフェを進めたところ、現在北杜市には53のグループが誕生した。

よって健康長寿というような、この地域の特徴的なものと掛けて事業などを展開していくことが重要であると思う。

次に全国でも大変珍しいことだが、長野県と山梨県との境で自立圏をつくり文化などの交流を行っていることも特徴の一つである。

最後に東京から移り住みたい土地のアンケートを行ったところ、今までは長野県が1位であったが、このアンケートでは山梨県が1位となった。また山梨県の中でも北杜市に移住したい方が4割であったが、私としては交通の便などを考えると北杜市の中でも小淵沢に移住したい方が多かったのではないかとと思っている。

このような特徴がある事柄を利用したり、またこれからも地域の皆でアイデアを出し合って事業を進めていくことが大切だと考える。

(会長)

では今日いただいた意見を加味して、最終の報告書を作成していただきたい。

その他何か意見などあるか。

(委員)

確認であるが、推進協議会については本日で終了ということで良いか。

(事務局)

推進協議会については本日で終了となり、今後の事業実施に関することについては、イベント実行委員会の中で協議を進め実施していくこととなる。

(会長)

事務局の説明のとおり、推進協議会は5カ年計画であったため終了となるが、イベントに向けての会は継続していくこととなる。

では協議事項1については、よろしいか。

(委員)

良い。

(会長)

では議事事項2「その他」について何かあるか。

(事務局)

1点連絡になるが、現在5カ年の実績報告書を芸大が製本作業を進めているところである。よって製本作業が完了し市に送達後、各委員宅には郵送でお送りさせていただく。

(会長)

それでは議長の任を降り、事務局にお返しする。

(事務局)

議事進行ありがとうございました。

ではここで5年間を振り返り、会長より一言お願いしたい。

(会長)

5年間があつという間に過ぎてしまった気がする。

いろいろ至らない点もあったかと思うが、協力をいただきありがたく思っている。

小淵沢を訪れるまでの間、車窓からの周辺の環境や風景を見るたびに非常に良い場所であると感じるとともに、小淵沢に来ることが非常に楽しみであった。

本協議会での地域活性化などの特徴を言えば、東京芸大が参加していたことが他の会議と違っていた部分であると感じている。もちろん北川原先生が駅を意匠設計したことから、駅周辺のまちづくりについても芸大のノウハウを上手に利活用したほうが良いということで始めたことであると思う。そこで私個人の意見としては、芸大はいろいろな力を持っているので、もっと芸大の力を利活用させてもらったほうが良かったのではないかと思っている。また芸大側としても協力していきたいという思いも感じたので、もっと接点を持って事業を実施していけたら良かったのではないかと思う。

そのような意味でも今後もっと盛り上がっていかねばいけないので、芸大に事業もそうであるがポスターなどの製作についても協力依頼するなかで、未来永劫とはいかないが、あと数年はいい形でお付き合いを継続していければ良いと思う。

またこれまでも話をしてきたが、小淵沢には多くの魅力があるが、その魅力をどのようにして日本全国、世界に発信するのかということが問われている。その魅力は、編集機能やデザイン機能でどのようにでも演出することができる。また小淵沢のまちづくりのキーワードとしては、食とアートと子供であると思っている。このキーワードを小淵沢流にアレンジして、今後発信を続けていってほしいと思う。

一点残念に思っていることは、もう少し商店街の方たちと話をしたり、いくつかの店舗と関係づくりを行い、駅舎のオープニングを迎えられたら良かったと思っている。

しかし今日うれしく思ったことは、これまで協議を行ってきたが、なかなか実現できなかった拠点施設整備について、商工会館を改修し拠点として整備する計画に向け進んでいるという話を聞いたことである。

今年駅舎オープニングイベントが実施されることになるが、小淵沢の方だけではなく、北杜市民全体が市民皆の駅であるという雰囲気づくりをして盛り上げていけたら大変うれしく思う。

(事務局)

それでは今回をもって小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会が終了となる。

これまで委員の皆様には、長期にわたりご尽力をいただき誠にありがとうございました。

会議では活発なご意見をいただき小淵沢地区への熱い思いが感じられ、またその成果として今後駅舎開業に関するイベントを開催していくこととなるが、これを契機として小淵沢地区がますます活性化が図られるよう期待をしているところである。

現在新駅舎については、6月の完成に向け施工を進めているところである。また竣工式については、先ほど説明させていただいたとおり、現在JRと協議中ではあるが7月2日を予定しているところである。また竣工式の際には、委員の皆様にも通知させていただきますので、ご出席を宜しくお願いしたい。

今後小淵沢地区の活性化に関する活動については、市も協働していく所存であるので今後とも宜しくお願いしたい。

では以上をもって本会を閉会させていただく。

会議終了 17時10分